1892年3月11日第3種郵便物認可
©朝日新聞社 2007年
43592号（日刊）

電力カット要請23件

東電 操業停止の工場も

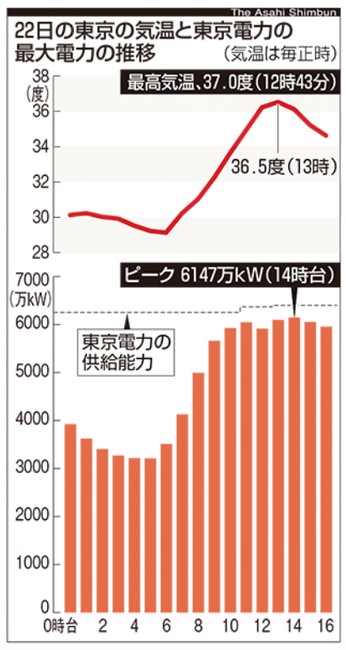
東京電力は22日、電力需給が窮迫する恐れがあるとして「随時調整契約」を結んでいる23件の顧客に対し、午後の電気使用を控えるよう要請。一部企業は生産ラインの停止に踏み切った。同契約の履行請求は90年8月以来17年ぶり。東電の22日の最大電力（電力需要）は6147万キロワットで、2日連続で今夏の最高記録を更新した。8月いっぱいは残暑が厳しい見通しで、東電の電力供給の綱渡りはしばらく続きそうだ。

随時調整契約は、電気料金を割り引く代わりに電力需給が窮迫した際には電気の使用を控えてもらう契約。大手メーカーや役所などと約1250件結んでいる。通知から実行までの時間により料金の割引率が変わり、3時間前通知、1時間前通知、瞬時の3種類ある。今回は、通知があれば、すぐ控えてもらう瞬時契約が対象だった。全契約相手を対象とすれば最大127万キロワットの電力をカットできるが、そこまでは必要ないと判断した。カットできた電力は12万キロワットだった。

瞬時契約を結んでいたのは鉄鋼、非鉄、化学の事業所など。このうち化学大手の昭和電工は横浜など4事業所で22日午後1時から5時まで、操業を全部または一部ラインで停止。東邦亜鉛の安中製錬所（群馬県安中市）も同時間帯に生産ラインを止めた。同社は隣接する販売子会社について午後から臨時休業とした。

東電と同契約を結んでいる東京都は要請を受けなかったが、自主的に出先機関や都立学校でエレベーターの停止に踏み切るなど対策を実施した。

22日の東京の最高気温は午後0時43分に37度を記録。予報より2度高かった。最大電力は22日朝段階の想定値6100万キロワットを超え、14時から15時までの平均が6147万キロワットとなった。東電がこの日の朝段階で用意していた供給力は6250万キロワット。需要を上回る供給力があったが、気温がさらに上昇したり、発電所にトラブルが起きたりすると需給が窮迫するため、同契約の履行請求を決めた。また、緊急時だけ使用が認められている栃木県の塩原発電所（揚水式水力）も同日午後1時12分から午後7時まで稼働させ、最大出力30万キロワットで発電した。



日印、温暖化対応を確認

両首脳が共同声明

インドを訪問中の安倍首相は22日夕（日本時間同日夜）、ニューデリーでシン首相と会談し、世界の温室効果ガス排出削減に向けて自ら提案した温暖化対策を説明した。シン首相は「評価する」と述べたが、同時に自国の経済発展を妨げない方法で対策を進めることを強調。今後の温暖化対策への協力の端緒はついたが、具体的な道筋づくりは難航しそうだ。また安倍首相は、インドから支持を求められていた民生用核燃料や技術の提供を米国から受ける「米印原子力協定」について「注意深く検討する」と態度を保留した。一方、パキスタンを訪れた小池防衛相に対し、ムシャラフ大統領は自衛隊の給油活動の継続とテロ対策特別措置法の延長を求めた。

＝4面に関係記事

【ニューデリー＝西山公隆】首脳会談で安倍首相は、主要排出国を巻き込んで2050年までに温室効果ガス排出量を半減させる「美しい星50」を説明。先進国を中心に08～12年の排出量の削減義務を定めた「京都議定書」後の枠組み作りでインドの参加を求めた。

シン首相は「提案は国際的な議論に大きく貢献するものだ」と評価し、ポスト議定書の枠組み作りへの参加も「真剣に考慮する」と表明した。

一方で「インドは環境問題と並んで社会、経済的な成長の確保、貧困削減を重視している」とも語り、経済成長を妨げるべきではないとの考えを示した。

会談後に発表された環境とエネルギーに関する共同声明でも、「50年まで」とした削減期限について、インド側の要望で「科学的コンセンサス（合意）に基づくべきだ」との文言が盛り込まれた。

また「米印協定」について、シン首相は日本側の支持を求めた。安倍首相は、インドが国際原子力機関（IAEA）との保障措置協定の交渉に適切に対応すべきだとしたうえで「唯一の被爆国として、核不拡散体制への影響を注意深く検討する」と述べ、態度を保留した。

【イスラマバード＝鯨岡仁】小池防衛相は22日午前（日本時間同日午後）、パキスタンのムシャラフ大統領と会談した。大統領は「日本の補給活動はパキスタンが活動を継続するうえで不可欠だ」と述べ、海上自衛隊がインド洋で行っている給油活動の継続を求めた。これに対し、小池氏は「日本国内で野党の理解を得られるよう努力したい」と応じた。

佐賀北 初V

「がばい、すごか」逆転満塁弾

第89回全国高校野球選手権大会（朝日新聞社、日本高校野球連盟主催）は22日、兵庫県西宮市の阪神甲子園球場で決勝があり、7年ぶり2度目の出場の佐賀北が広陵（広島）を5－4で下し、初の全国制覇を遂げた。＝2面に「ひと」、19・20・21・39面に関係記事

広陵（広島）	0	0	2	0	0																				
佐賀北（佐賀）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5	×	5	4						

佐賀北は開幕試合で福井商に快勝して甲子園初勝利を挙げると、2回戦では宇治山田商（三重）との延長15回引き分け再試合を制した。3回戦で前橋商を下し、準々決勝は優勝候補の帝京（東東京）に延長サヨナラ勝ち。準決勝で長崎日大との九州対決を制した。決勝では、8回に副島が左翼席に飛び込む満塁本塁打を放ち5－4と逆転、深紅の大優勝旗を手にした。

この試合の観衆は満員の5万人。15日間の総入場者数は77万人だった。

8回裏、副島（中央右から2人目）は逆転満塁本塁打を放ち、本塁で松尾、辻③、井手⑥と抱き合って喜ぶ＝22日、阪神甲子園球場で、小川智撮影

「ふつうの子」が大観衆を味方につけ、奇跡的な勝利を手にした。

3点を追う8回1死満塁、佐賀北の打席には今大会2本塁打の3番・副島浩史三塁手。三塁側アルプス席が発する応援のリズムが、球場全体へ広がり、スタンドが揺れる。

そのアルプス席近くの上空で、副島の打球が高い放物線を描く。地響きのような歓声が沸き起こった甲子園で、ダイヤモンドを副島が巡った。

「狙っていた外角のスライダーが真ん中に来た。今日、唯一の失投だと思う。打った瞬間、手応えがありました」

逆転満塁本塁打――。13年前、開幕試合に登場した佐賀商が、勝ち越し満塁本塁打で決勝を制した。同じ県から出場した県立校が、同じような軌跡で、頂点に立った。

練習環境が恵まれているとは言えない。放課後の練習は午後7時30分までで、試験前1週間は部活動を休む。「野球に打ち込みたかったら勉強もがんばらないといけない」というのが百崎敏克監督の指導方針。どこにでもある県立校だ。

そんな選手たちが8日の開幕試合で、同校の甲子園初勝利をあげる。一躍注目されたのは宇治山田商との2回戦。昨夏の決勝に続く延長15回引き分けという熱戦を繰り広げた。準々決勝の帝京戦では再び延長13回の熱戦を演じる。無失点を続ける久保貴大投手の2度にわたるグラブトスでのスクイズ阻止や、馬場崎俊也中堅手の背走キャッチ。強豪校と堂々と渡り合い、サヨナラ勝ちした。

佐賀弁の「がばい」は「とても」という意味。「がばい、すごか（すごい）」。旋風を巻きおこした。

「この子たち、こんなに上手だったかなあ」。百崎監督も驚くほどの成長ぶり、はつらつとしたプレーが高校野球ファンの心をつかみ、深紅の大優勝旗もつかんだ。全国の高校球児を勇気づける優勝だった。

（藤島真人）

天声人語

75年前の冬のこと、5人の乗った飛行艇「白鳩号」が大阪から福岡へ向かっていた。折からの吹雪に艇は針路を失う。空中分解して山に墜落し、全員が帰らぬ人となった▼原因は詳しく調べられたようだ。調査はまず、機体の散乱具合をもとに、時計の針を戻しながら、どんな順序で分解が進んだのかを突き止めた。さらに、さまざまな実証をへて、空中分解の端緒となった「翼の銅線の切断」にたどり着いた▼物理学者の寺田寅彦は、報告を読んで感心したらしい。「下手な探偵小説よりおもしろい」と感想を残している。そして、「銅線を強くすれば、少なくとも同じ原因による事故はなくなるわけだ」と事故調査の本質を突いた。

「犯人捜し」ではなく、「再発の防止」が、調査の目的なのである▼那覇空港で中華航空機が炎上した事故は、調査が進むにつれて、相当な燃料漏れがあったとわかってきたようだ。目撃者によれば「ジャージャー漏れていた」らしい▼水も漏らさぬはずが、なぜ蛇口でもひねったようになったのか。突き止め、対策が取られなければ、同じ旅客機に命を預ける気にはなれない。ベストセラー機で知られ、国内でも10機が飛んでいる▼75年前の新聞には、白鳩号の操縦士は「日本屈指」だったとある。腕前で飛んだ時代から、いまや技術の粋を集めたハイテク機である。800人を乗せる超大型機など、寅彦は想像もしなかっただろう。だが、力説した「真相を明らかにして後難をなくす」大切さは、時を経ても変わってはいない。

朝日新聞

2007年（平成19年）
8月23日
木曜日
処暑（しょしょ）

天気	6	9	12	15	18	21(時)		
東京						50	31	27
横浜						40	31	26
千葉						30	30	26
さいたま						40	32	25
札幌						10	26	19
仙台						0	30	22
名古屋						30	33	27
大阪						0	34	28
福岡						0	34	26

朝日新聞東京本社　発行所：〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2　電話：03-3545-0131　www.asahi.com

事件　「警官につきまとわれ迷惑」

警視庁立川署の巡査長に射殺された女性は、周囲に「お巡りさんにしつこくつきまとわれ迷惑」と話しており、巡査長が一方的好意を寄せた末の事件だった可能性がある。一方で巡査長の問題行動がまかり通るずさんな管理実態もわかってきた。 **39**面

サッカー　五輪最終予選、辛勝スタート

22歳以下（U22）代表によるサッカー男子の北京五輪アジア最終予選が開幕。日本はベトナムを相手に1－0の辛勝でスタートした。前半、青山直（清水）が挙げた1点を守りきった。 **17**面

進化　ヒト・ゴリラ分岐 1200万年前

エチオピアで約1千万年前のゴリラの祖先の化石が見つかった。ヒトとゴリラは、通説より400万年もさかのぼる約1200万年前に、共通の祖先から枝分かれしていたようだ。 **38**面

国際　41年前、水爆が落下した村

スペイン南部の村に41年前、米軍機墜落事故で水素爆弾が落下した。核爆発はなかったが、放射性物質が漏れ出した。冷戦時代のフランコ独裁政権下、情報は統制され、風評が駆けめぐった。最近、汚染調査が始まったが、住民の心境は複雑だ。 **9**面

ネット　迷惑メールの規制強化へ

出会い系サイトの勧誘や薬品の違法販売などパソコン向けの迷惑メールが急増している。手法が巧妙化し、規制の空洞化も指摘される。受信者の承諾のない宣伝メールの送信を禁止する規制強化に、総務省が乗り出す。 **11**面

競馬　JRA、週末からレース再開

馬インフルエンザのため先週末のレースを中止した日本中央競馬会（JRA）は、3競馬場で今週末のレースの開催を決めた。ただ、インフルエンザはまだ終息しておらず疑問の声も。 **18.38**面

歴史　南京事件 日中で議論再燃

1937年に起きた旧日本軍による「南京事件」をめぐって日中双方で議論が再燃している。事件からちょうど70年。政治、経済レベルでの日中関係が好転しつつあるなか、両国間で微妙な歴史問題も新たな展開を迎えるのだろうか。 **3**面

文化　日米の映画、引っ張る2人　**23**面

特集　トプカプ展、館長がご案内　**22**面

政治4面／政策11面
国際6.9面
経済13面
金融情報24.25面
オピニオン15面／声14面
地域35.36.37面
囲碁・将棋27面
スポーツ16～21面
文化23面
小説23面
生活28.29面
TV・ラジオ26.27.40面

be evening
曲作りに疲れてくると
土鍋で米を炊くつんく♂

購読・配達（平日7～21時）
お申し込み 0120-33-0843
ご意見 03-5540-7715
広報部（平日9～21時 土曜18時 日・祝休）
ご意見 03-5540-7615
ご質問 03-5540-7616